

森づくりトークインの開催概要について

開催の概要

7月23日(月)18:30～	森づくりトークイン庄内	開催場所:庄内町響ホール	【参加者:35名(15団体)】
7月25日(水)18:30～	森づくりトークインもがみ	開催場所:最上総合支庁講堂	【参加者:44名(19団体)】
7月27日(金)18:30～	森づくりトークイン置賜	開催場所:置賜総合支庁講堂	【参加者:23名(12団体)】
7月30日(月)19:00～	森づくりトークイン村山	開催場所:村山総合支庁講堂	【参加者:29名(21団体)】
			トータル参加者 131名(67団体)

1 開催の趣旨

森林ボランティアや県民による継続した森づくりが全県に広がり、各団体の森づくりが次に繋がる機会が持てるように、各管内の森林ボランティア団体を対象に、やまがた緑環境税の趣旨や今年度の公募事業の審査状況について説明会を行い、来年度に向けた事業のあり方、緑環境税による森づくりの方向性等についての意見交換を行うものである。

2 主催(共催)

やまがた公益の森づくり支援センター
みどり自然課
各総合支庁森林整備課森づくり推進室

3 トークインの内容

第1部 やまがた緑環境税の趣旨の説明と19年度の公募事業の審査結果
第2部 森づくりの関わり方について自由討論会

4 配布資料

公益の森づくり支援センターの概要(資料1)

公益の森づくり支援センターの業務(資料2)

やまがた緑環境税を活用した森づくり、平成19年度みどり環境公募事業の説明資料について(資料3)



1 森づくりトークイン庄内 での意見等

第1部で出された意見

荒廃森林の整備箇所について、庄内地域で対象となる地域について教えてほしい。

緑環境税を活用して対象となる森林を買い上げすることは可能か。緑環境税については、もう少し早くこのような説明をしてほしかった。県民の理解が少ないと思う。実際に県民の方に見てもらわなければならないので、展示林的なものを整備することが必要ではないか。本当に目に見える形で説明することが必要なので、現地にバスで連れて行くような企画も必要ではないか。

森づくりトークイン庄内



第2部の意見交換で出された意見

(県等への要望・質疑)

赤川流域には沢山のため池があり、そのブラックバスの駆除を緑環境税でお願いすることはできないか。

私達のボランティア組織は高齢化しており、このままでは組織が維持できるかどうかの問題もある。県がこれからボランティアを引っ張って行く考え方、というのをお聞きしたい。

平成9年から遊佐町で地域を守るボランティアをしている。対象とする民有地が県民の共有財産なら「緑環境税」を活用して県が買い上げ、保安林にしていくことも必要と考える。

森づくりが中心でない自然環境の保全活動に関する事業はどこに応募すればいいのか考えてほしい。

(参加者の意見)

自然の家周辺の森林の間伐、歩道の整備を行っている。山を大切にすることは、海などの環境を守ることに繋がると思う。

平成12年から圃場の整備を中心に水生動物(メダカ)などの保全をしている。学校教育などと連携した取組みもしている。今回公募事業に応募した理由は資金の確保の面もあるので、色々ご指導をお願いしたい。

8月にイヌワシ保全シンポジウムを行う。その中ではイヌワシと森林施業の関係にも注目しており、引き続き森林施業と生態系の考え方を検討していきたい。

森づくりについて分からないので勉強に来た。クロマツ林の間伐や剪定材(廃棄物)を活用して木炭の製造とか、有効活用できないか検討したい。

水と空気と土をいかにして保っていくのか、将来の森との関わりをどうするのか私たち企業としても、検討することが重要な課題と認識している。若い人の確保、専門技術の確保の方法を知りたい。

クロマツは我々の文化であり、歴史遺産である。先人をたたえることは、人工林を維持していくこと。平成13年より庄内海岸でネットワークができあがり、毎年クロマツシンポジウムを開催している。

庄内海岸の保安林、約60haを対象にして活動している。今後継続した活動を行ううえで、新しい会員を募集し、時代の求めに応じて私たちの会も変化を遂げていくことが必要と考える。

先程、共有化という話があったが、今回のこの制度の場合は誰が所有というのは問題でないと思う。公益的機能は地域の方々が所有という枠を超えて大きく影響を受けているからである。所有の枠を超えて大きく関わっていく仕組みを創っていくことが必要であるし、その普及啓発も必要と考える。若い人ひとりひとりに声をかけ、活動を続けていくこと。そして、地道に活動している団体には、いい点数をあげてほしい。

地球温暖化が地球規模の問題となっている中、荒廃森林の整備も重要である。世界規模の木材価格の上昇は、国内の国産材生産の追い風になる。また、森林・林業の活性化により地域が豊かになり、重要性が認められるようにすることが必要と考えている。

さらに、庄内の木材の安定供給のためには、木材の安定加工が必要であり、後継者の育成・加工場の整備が課題と考えている。

庄内海岸のボランティア



2 森づくりトークインもがみ での意見等

第1部～第2部を通して出された意見

(県等への要望・質疑)

最上らしい公益の森づくりとの説明があったが、「公益の森づくり」とはどんな事を意味するのか。

山・森にある資源を利用して活動をしている。自分の山の木で建物や遊具などを作って販売している。関連して、税による森林整備への支援の結果、どのくらいの木材の利用があるか、どのくらいの木が資源として使われるのか県に聞きたい。

子ども達が地域を知らずに地域に愛着を感じることはないので、3年間、地域の森林を利用した活動を行う予定である。このように何年か継続する活動なので、3年から5年の計画全体を支援することも検討してもらい、私達の活動を見守ってほしい。

森づくりトークインもがみ



(参加者の意見)

活動への参加者が少ないということであるが、私達は、参加者に喜んでもらえるイベントを心掛けている。そのため、植樹などのボランティアと楽しみを組み合わせた内容としている。

今回、森づくりの団体が主体で他の団体が入っていないのが残念。今後の課題など一般県民にも広報・周知を図ってほしい。また、各県の森林環境税の動向など最新の情報を私達県民に知らせてほしい。パンフレットなども古い情報となっている。情報は常に最新のものに修正し発信すべき。活動上の課題としてあったのが資金面の問題であった。しかし、今回公募事業により資金援助もらい解決した。また、各団体の公募事業の詳細が分からないので資料がほしい。

河川の保全活動を現在25名の会員で実施している。楽しみながら保全活動を今後も実施していきたい。

自然観察会や希少野生生物の保全活動を行っている。活動のコンセプトは、地域の人から参加してもらい、地域の誇りを喚起しながら、地域に根ざした活動になるためのきっかけを作ることである。

6つの地域が一緒になり自然学校をしており、270人が里の先生となり自分の地域に誇りを持つ活動となってきた。若い人の参加も多く活動は活発化している。

癒しの里づくりをテーマに活動をしている。緑環境税関係では、交付金を活用して学校と連携した取組みを行っている。地域の共有林を「学習エリア」「生産エリア」に分けて活動を展開する予定である。

森や川の活動や木工教室など、1年間を通じてプログラムを提供しているは遊学の森のみである。今後、町から水田を借上げてもらい「ピオトープ」づくりもする予定である。

【 山形創造NPO支援ネットワークからの話 】

- ・私達のNPOは県内3箇所で、NPO等によろず相談を受けている。県民参加の森づくりについてもいろいろとご相談をいただいた。公募事業などの支援の説明もさせてもらった。
- ・その中には、志はあるが、手続き（事務処理）の煩雑さという問題で事業に応募しないという団体もあるので、関係する県などの機関には十分お手伝いをするように要望している。
- ・今回、活動資金の問題も議論されているが、「活動資金を調達するコツを得る」講座を行う予定なので是非参加してほしい。
- ・遠くからきてボランティア活動を行う上で、交通費を充実してほしいという意見があったが、有償ボランティアという形は、長く活動できる秘訣だ。長く活動していく方法も考えていくべきだ。
- ・また、森林ボランティアについては、「スポーツ感覚」で若い人から受け入れてもらうような仕掛けも必要と思う。さらにボランティア活動により軽い経済効果も生まれると思う。例えば、最上の巨木を巡りながらの活動を企画するなど考えられる。
- ・これからも、活動を行う上でいろいろな問題があると思うが、是非何かあれば一声かけてほしい。

最上のボランティア



3 森づくりトークイン置賜 での意見等

第1部で出された意見

公募事業にはかなり期待をしていたが、助成額は要望したうちのほんの一部であった。たいへん不満である。県としては公募事業について今後どのように事業を展開していく見通しなのか。

中心となる森林整備の事業が決まらないなか、県民の緑環境税への理解がなされているのか疑問である。また、岩手県では、昨年度の税事業について予定した内容が実施できない状況と聞いた。山形県もこのようなことになる心配はないのか。

公募事業については、森林を直接保全する事業以外も対象にしてほしい。対象を環境保全に広く広げて、森林に間接的に関わるようなものも対象にすべきと考える。

森づくりトークイン置賜



第2部の意見交換で出された意見

(県等への要望・質疑)

今後、森林整備事業が実施されるわけだが、これは入札によるものなのか。林業従事者も減少しているなか、ボランティア活動など地域で山仕事を実施している方が森林整備に参加する制度はできないものか。

NPO等が入札に参画できるように、新たな後継者を県が育成することも必要では。さらに、林業士など個人で仕事をしている方々を集め、共同作業の受け皿にすることも可能なのでは。

単年度だけで問題が解決する事業はないので、財政的にも継続して事業展開を図ることが必要。継続支援を検討してほしい。

公募事業になぜ取り組むのか、公募事業をどのように展開するのか、応募する団体の熱意を聞いてほしいと思う。(事前のヒアリングを希望する)

(参加者の意見)

資金や参加者など様々な問題があるが、森林のボランティア活動は、市民が参加する森づくりということで、市町村と連携して取り組んでいくことが必要と考える。

市町村は交付金事業として様々な取組みをしていると思うが、ボランティアサイドには市町村から情報提供が全然ない状態である。

緑環境税には反対であったが、税制度ができれば、積極的に活用することが大切だと思う。公募事業においては提案する人が「なぜ事業を行うのか」きちんと説明して、それが事業に反映されるようにすることが大切と考える。

公募事業の審査においては、書類だけでは見えない部分があると思う。できれば、直接面接の形で各団体の声を聞いて審査してほしいし、現場もみてほしい。今まで地域で森づくりをやってきた人の気持ちを分かってほしい。

マツの保全対策は事業が複雑で、昨年まであった事業が今年度無いなど、事業については横の連携がなっていないような気がする。そのため、これからは市町村の実施する保全対策と地域の住民が実施する事業がタイアップできればいいと思っている。連絡調整を密にして交付金などを活用した事業も連携して取り組みたい。

市町村はボランティア活動にはあまり協力的でない面がある。森づくり事業は「学校関係」「ボランティア関係」「教育委員会」「市町村」が一体となって行っていくべき。そのための働きかけ、コーディネートを県にして欲しい。

サル被害で困っている。サル等の被害で困っているため、サルが山に戻る森づくり(奥山でサルの住みよい森づくりをすることが大切)を行ってほしい。そのためなら、5,000円でも負担する。

鎮守の森を大切にしたいが、これではお金がでない。ここの松枯れも後手後手となっているが、抵抗性マツの植林など技術的なことも含め森林整備をしている、いずれにしても、環境税を活用した交付金などの事業も市町村と協働で展開しているので、県民へ広く事業の内容について周知を図ることが必要と考えている。

【 山形・おきたまNPOセンターからの話 】

- ・行政の仕組みの中で淡々と事業を実施することになるわけだが、それで県民に理解されるのか。NPOや一般県民にどんどん情報提供することが必要と考える。また、今回の公募事業の採択率はかなり高いものと思う。十数件応募があり2～3件採択されるのが通常である。
- ・公募事業についてはあらかじめ支援対象を絞り、どうするのか提案してもらうのではなく、このような問題があるから、このような企画が必要であるというプレゼンテーションを受け事業を実施することが必要と考える。(事業項目にとられるのではなく、何が問題なのかという提案から始まるべき)



4 森づくりトークイン村山 での意見等

第1部～第2部を通して出された意見

(県等への要望・質疑)

昆虫など貴重な生物の保全活動を行っている。それを活用した環境教育も大切と考えている。今回の公募事業は生物等の調査のみでは対象とならないとのことであったが、どのようにすれば採択がされるのか教えてほしい。

女性と子どものための希少野生生物の保全活動や学習会を行っている。県内各地で行っているが、西川町ではトンボの保全活動を行っており、その結果を地域住民に報告していきたい。要望としては、毎年活動するので必要な機材の助成をお願いしたい。また、公募の期間も早めの設定をお願いする。

蔵王地区の2箇所事業を展開している。下刈り作業などを通じて子ども達に森林の大切さPRしている。ただ、環境教育において子ども達の募集の面では苦労している。どのようなPRが良いのか教えてほしい。

ヘルメットなどの備品の貸し出しについて、行政の協力をお願いしたい。さらに、森林インストラクターなどの講師の派遣についても協力してほしい。



(参加者の意見)

森づくり活動を実施して10年くらい経過したが、どうも盛り上がりにかけるので、他の団体も含め連携した取組みを行うことに改善して、今回5団体が連携し公募事業に応募した。

野生動物の調査を実施しているが、クマの調査など大きな資金が必要な取り組みや、観察会など連携と継続が必要な取り組みを行っている。

県内の各事業所と共同で植林、育林活動を行っている。企業にも支援する制度なので、苗木の助成をもらい、労務だけ提供して行っている。基本的には二酸化炭素の削減につながる運動なので、取り組みによりどのくらい二酸化炭素が吸収されるのか興味がある。

全山植物園構想ということで実施している。最近はおオムラサキという蝶の保全活動で行っている。クヌギやコナラの樹液を吸う昆虫が増え、おオムラサキの食草であるエゾエノキの植栽を行い、一体とした活動を楯岡小学校と協働で実施している。

森林等に降る雨が森林にどのように影響するのか検討することを目的に調査している。酸性雨が土壌にも影響を及ぼすので幅広く調査したい。また、多くの人に環境学習ということで普及啓発をすることも重要と考えている。継続と連携が大切だ。

今月、第1回森づくり体験を行った。山形市内の490の子ども会がある中で、リーダー研修部が少年自然の家を活用したメニューとして実施した。子ども達は80人くらい参加したが好評であった。中学生にリーダーになってもらうが、参加者の確保がむずかしい。

県内に200人の会員がいるので、女性の会を活用してもらいたい。林業士などとも連携して支援することが可能である。

P T Aの皆さんと協力して、サクラの保全、昆虫の生態調査などを行っている。今回の公募事業については、申請から助成が決定するまで時間がかかりすぎる。助成金の額も少ないと思う。

奥羽山脈を越えて宮城県まで歴史の道の整備などを行っている。周辺には約千haの里山がある。何か保全活動を行いたい山に入る道も荒れている状況である。

まったくの農村地帯であり、地域の財産としてスギを植林し林業公社に管理してもらっている。山に対する意識が希薄になる中、地域の子供達を対象にしたウォーキングなどを行っている。県民の森の案内人の協力をもらい活動をしている。このように地域の財産を守り育てて行くことが大切であるが、高齢化の問題や資金不足の問題があり今後の検討課題である。

自然に学び自然と触れ合う活動を行っており、市有林の植樹活動などを行っている。また、福祉施設での植樹、森のコンサートなども行っている。これまでの取り組みの広報周知を図りたいと考えている。

【 山形創造NPO支援ネットワークからの話 】

- ・全国植樹祭の時のテーマは「感じてますか、森があるしあわせ」であった。正に皆様はしあわせを森からもらい、それをエネルギーに代えて取り組んでいると思う。
- ・資金の面では、まず、みんなが支える森づくりの目的をしっかりと読んでいただきたい。県民意識の機運の醸成ということなのでその活動に対して支援されるものである。また市町村や総合支庁を巻き込んだ取り組みにすることが大切で、いろいろと相談してほしい。さらに、地球環境基金の事業など書類審査だけで通るものもあるので、熱い思いで応募してほしい。
- ・継続性の面では、同じような団体あるいは違う活動の団体と手を組んで行うということもある。例えば、子育てと森林、 と森林など異分野との連携も必要。
- ・名刺に自分は何ができるのか書いて情報提供することが大切で、次に繋がると思う。横の連携をますます強化して継続した活動を行ってほしい。

村山のボランティアの写真

